

北欧の民話

民話について

民話とは、民衆の生活のなかから生まれ、民衆によって口承(口伝)で伝承されてきた説話のこと。
 昔話や伝説、世間話も民話に含まれる。

民話は、内容や形式によって、大きく「昔話」「伝説」「世間話」に分けられる。

- ・ 昔話
「むかし」という種かではない時や「あるところ」という不明な場所を用い、本当にあったかどうかは知らなければどという心持ちで語り継がれる話。
- ・ 伝説
ある特定の人物や時、場所と深く結びつき、少しは信じてほしいという心持ちを含んで、説明的に語り継がれる話。
- ・ 世間話
誰かが主人公としてまづねに化かされた、などといった話。滑稽の人や動物、悪魔が主人公である場合もある。笑話や体験談のかたちで口承される。

木のまたアンティ

貧乏な家に男の子、アンティが生まれ、毛皮商人の跡取りになると言われたが、それを聞いた商人は男の子を何度も殺そうとするがうまくいかない。商人の娘と結婚したアンティに商人は人間にとっての幸せを北の館の女主人に聞いて来いと旅に行かせる。これで帰ってこないと思ったが、アンティは旅の途中で出会った人々の質問の答えも聞いてくる。そのお礼にたくさんのお宝を持って帰ってきたことが、商人は妬ましく思い、自分も旅に出る。北の館の手前の川にくると、船渡しのおばあさんは商人が向こう岸に着くときに自分が先に降り、商人を渡守にし、おばあさんは自由になった。

木のまたアンティ

人間にとって何が幸せなのか、それは「人間の一番の幸せは、大地とともに働くこと。木を切り倒し、根を掘り起こし、石を集めて、水路を作り、地面を耕すこと。それが一番の幸せなのだ。」

フィンランドの人たちは、女主人がアンティに教えてくれたので、人間にとって何が幸せか、誰もが知っているのです。

昔話、伝説、世間話の違い

種類	人物・時・場所	語られ方
昔話	不特定	事実かどうか不明
伝説	特定	事実かどうか不明
世間話	特定	事実である

- ### 北欧の民話 フィンランド
- ・ まぬけな悪魔
 - ・ 魔法の指輪
 - ・ 生きているカンテレ
 - ・ 鳩の鳴き声
 - ・ 霧山の王
 - ・ 黄金の鼻をもつ息子
 - ・ 馬と狼
 - ・ 馬鹿な妻
 - ・ へびのどさか
 - ・ リすとてぶくろと針など

- ### 北欧の民話 スウェーデン
- ・ トロールとうでくらべをした少年
 - ・ 白いくま
 - ・ 二つの箱
 - ・ コックのペレ
 - ・ 腹ベこキツネ
 - ・ くま狩りのダレカリア人
 - ・ 夫婦は一体
 - ・ 魔法にかけられた牛など

屋根がチーズでできた家

むかし、森の中に子どもの肉を食べるのが好きな悪い女トロールがいた。家の屋根をチーズで作り子どもたちをおびき寄せ、子どもをつかまえてかまどで焼いて食べていた。ある日男の子と女の子の兄弟が、チーズの屋根に惹かれてトロールにつかまってしまう。しかし、男の子は木らせてから食べたほうがいい、木の葉やミルクを食べさせると太る、などと教え、食べられることを免れてきた。そして子どもを丸焼きにする準備ができた時、男の子は焼き板に座るがわざとろけおち、トロールに見本を見せていい、トロールが焼き板に座ったとたん男の子はかまどにトロールをおしこみ焼き殺しました。そして、兄弟はトロールの家にあった宝物を持って家に帰り、みんなは幸せに暮らしました。

北欧の民話 デンマーク

- ・ 小さいおいはれ馬
 - ・ 銅のなべ
 - ・ いのちの実
 - ・ 強いハンス
 - ・ トツリレウィップ
 - ・ 魔法使いの息子
 - ・ 漁師の息子
 - ・ 三つの忠告
- など

赤いめ牛

ある日、王女が自分の父親と結婚させられそうになり、牛小屋で泣いていた。歌を聞いた赤いめ牛は王女を背中に乗せ旅に出た。旅の途中で銀の森にさしかかり、め牛は「森の中で葉っぱをとってはいけない、一枚でもとると雄牛が私を殺しに来る」と忠告しましたが、森を出るときに王女は耐えきれず葉っぱを取ってしまう。すると雄牛が現れめ牛と戦い、最後にはめ牛が勝った。それから銀の森、金の森とおりめ牛は同じ忠告をするが、王女は守れず、その度に雄牛と戦った。遠くの城に着くと王女はそこで料理番として働く。みんなが教会に行っている間に、料理をしていた王女に、め牛がドレスを着て教会に行くように言う。教会にいた王子は王女に一目ぼれするが、礼拝が終わると王女はすぐに姿を消してしまう。3回目に教会に行くと、王子は王女を捕まえようとするが、できず。王女は片方の靴を盗んで逃げてしまう。王子は靴の持ち主を探し、ついに王女を見つけ、二人は結婚をして幸せに暮らしました。

北欧の民話 アイスランド

- ・ リヌスとシグニ
 - ・ お月さま狩り
 - ・ メスウシのブッコロ
- など

正直な若者とねこ

ある日、よぼりな父親が死んだ日に、父親の財産の半分は貧しい人にあげ、残りは海に捨て、そのとき浮かんできたお金は大事にしろ、という夢を父親の息子は見た。そのとおりにすると海の上には6スキリングとちっぽけな小銭が浮かび上がった。お金をなくしてしまった息子は家を出て、森の中の小さな小屋に泊めてもらった。小屋の中には奇妙な灰色の動物のねこがおり、6スキリングで売ってもらう。老人に城へ行くようすすめられ城へ行くと、王様はねずみに困っていた。すると突然ねこがねずみを殺し、残りは追い出してしまった。感激した王様は、この若者に娘と結婚させ、国を受け継がせた。そしてこの若者は永く幸せに暮らしました。

北欧の民話 ノルウェー

- ・ 三匹のやぎのがらがらどん
 - ・ おんどりときつね
 - ・ ドブレ山のねこ
 - ・ 心臓を持たない巨人
 - ・ 逃げ出したパンケーキ
 - ・ 若者と悪魔
 - ・ 魔法のあらし
- など

北風をたずねていった男の子

ある日、ハンスという少年が小屋から粉を持って、北風に粉を吹き飛ばされてしまう。粉を取り返すため、北風を追いかけると、北風に粉はないと言われ、かわりに、ごちそうの出るテーブルかけをもらう。帰りは遅くなったので間に泊まり、テーブルかけからごちそうを出したハンスを見た宿のおかみさんは、夜中にハンスのテーブルかけとたのテーブルかけをすりかえた。ハンスは家に帰り、母親にごちそうを出そうとするがテーブルかけからは何も出ない。ハンスはまた北風のとこへ行き、テーブルかけは返すから粉を返して、というが、北風は粉の代わりに、金貨の出るやぎをわたす。帰りにまた宿に泊まるが、今度は宿の主人に金貨の出るやぎをたのやぎと取りかえる。家の帰るとやぎからは何も出ないので、また北風のとこへ行く。次に粉の代わりに悪いやつをふんぐる杖をもらう。そして帰りにまた宿に泊まるが、今までのことは宿の主人たちがやったと気付いたハンスは、その杖に主人とおかみさんをやつつけてもらい、ごちそうの出るテーブルかけと金貨の出るやぎ、悪いやつをふんぐる杖を持って家に帰り、ハンスと母親は幸せに暮らしました。

日本の民話

- ・ 一休さん
- ・ 一寸法師
- ・ 浦島太郎
- ・ 傘地蔵
- ・ かちかち山
- ・ 金太郎
- ・ こぶとりじいさん
- ・ 猿蟹合戦
- ・ 三年寝太郎
- ・ 三枚のお札
- ・ 舌切りすずめ
- ・ かぐや姫
- ・ 力太郎
- ・ 鶴の思返し
- ・ 花咲かじいさん
- ・ 分福茶釜
- ・ 桃太郎
- ・ わらしべ長者

日本の民話

- ・ 安寿と厨子王丸
- ・ 腰折雀
- ・ うりこひめとあまのじゃく
- ・ 子育て幽霊
- ・ 送り狐
- ・ 佐々木徳夫
- ・ 和尚と小僧
- ・ 佐治谷ばなし
- ・ 御伽草紙
- ・ 佐渡情話
- ・ 吉四六
- ・ 大山の背比べ

日本の民話

- 日本で受け継がれてきたさまざまな民話からは、日本の歴史的背景や世情、教訓などを読み取ることができる。
- 例えば、桃太郎に退治される鬼は、当時人々を苦しめていたその土地の支配者がモデルになったといわれている。
- 民話には当時、世の中に不満や恐れを抱きつつも、表向きには支配力に圧迫されて何もできなかった人々の未来への願いや希望がこめられているのではないかと考えられる。

金太郎

- 金太郎 足柄山の金太郎 怪童丸 坂田金時 金時(公時) 怪童金時
- 金太郎は、源頼光に仕えた坂田金時がモデルになったと言われており、実在の人物を讃える目的で誕生したのではないかと考えられている。
- 神奈川県小田原市にある足柄山に住んでいた。
- 金太郎の真面目は雷神と山姥？
- 坂田金時の幼少時代や出世の物語が脚色されて伝えられた物語が現在の金太郎の物語になったと言われている。
- 源頼光に仕えた金時を含む4人の家来は「頼光四天王」と呼ばれ、「今昔物語」にも登場している。
 金時を嫌った3人の家来は実在が証明されている。
 藤田朝わたなべのつな
 ト郎半蔵うらべのすえたけ
 磯井貞光(うすいのおだみつ)

